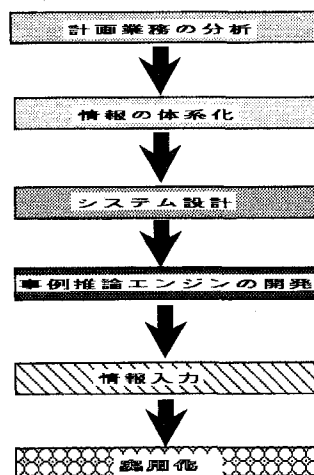




(1) 広域立地条件
 (位置、面積、地勢、氣候、人口、世帯数、交通機関、産業分布、地域経済力等)
 (2) 市場調査・分析
 (小売業、宿泊施設、スポーツ施設、事務所、公共施設、住居規模等)
 (3) 計画地域の位置付け
 (上位計画、地域区分、再開発計画、生活実態等)
 (4) 開発コンセプト
 (開発の方向性、目標、コンセプト)
 (5) 建設計画
 (施設規模、計画図等)
 (6) 事業計画
 (事業方式、事業費、事業手法)
 (7) 検討課題の抽出

(5)失敗理由解析機能（Assigner）

失敗判断基準に抵触した要因を分析し、計画に対する影響度を解析する。

(6)学習機能（Storer）

立案した計画案を事例ベースの内容と比較評価した上で、新しい内容である場合について学習し、事例ベースに保存する。以上の各機能よりなるシステム概念を図3に示す。

4. まとめ

事例推論ベースを活用したシステムの適用事例を図4に示す。この事例は、地方都市の工業都市再生を目的に活性化方策を地域特性を踏まえた形で創出し、提案した事例である。結果としては、類似都市の情報が多分でなかった点と、地域情報の変化に対応出来なかったなどの問題があったが、通常計画者が考えるものに類似していたことで、今後の可能性を考えた場合、評価に値すると判断した。

尚、今後もさまざまな地域開発の事例を通して、本システムの検証を行っていく予定である。

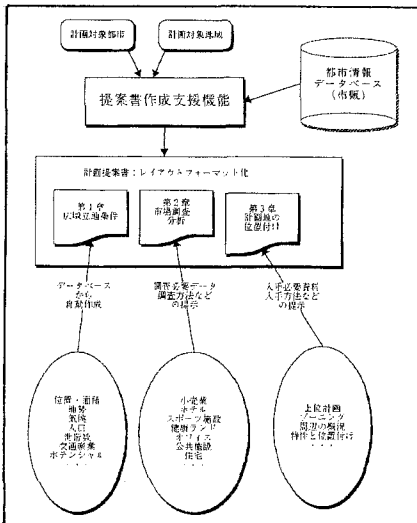


図2 提案書作成支援システム概要図

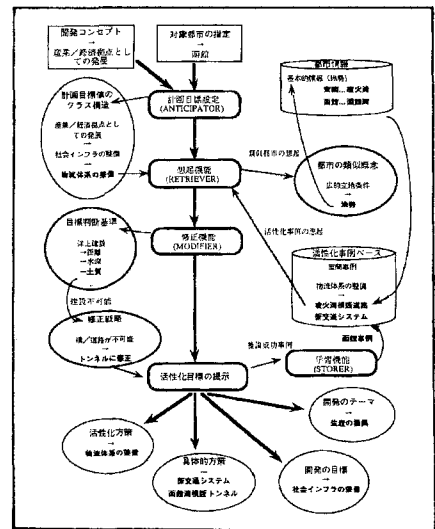


図4 想起支援システム活用事例

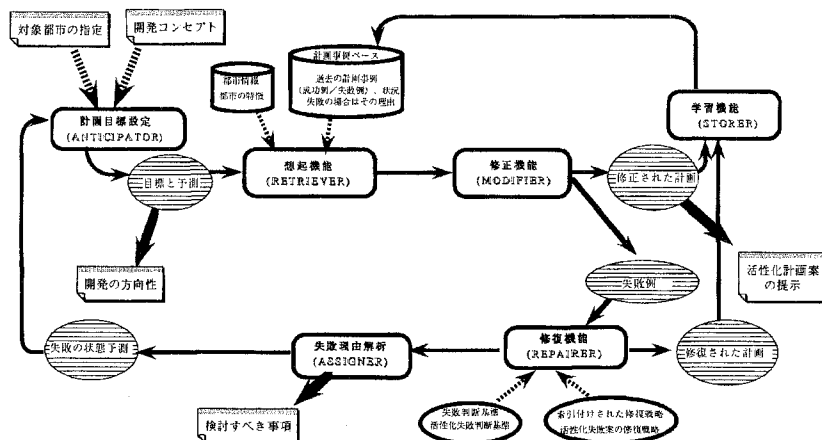


図3 想起支援システム概念図